

香取市総合計画審議会（第2回）会議概要

- 開催日 平成24年9月3日(月) 午後1時30分から3時45分
- 会場 香取市役所 5階 大会議室
- 出欠 出席：19人 堀井委員、浅野委員、柏木委員、高岡委員、城之内委員
大槻委員、亀谷委員(代理)、伊藤委員、小倉委員
尾形委員、根本委員、鈴木委員、平塚委員、諏訪委員、
中村委員(代理)、石田委員、安藤委員、長谷川委員
加藤委員
欠席：0人

■ 会議概要

1 開会

企画政策課長の司会進行により開会

2 委嘱状交付

市長より、新委員2人に委嘱状を交付

3 諮問・市長挨拶

市長より審議会会長に諮問書の手渡し
諮問後、市長よりあいさつ

4 会長挨拶

柏木会長より挨拶

5 議事

議事に入る前に前回、副会長に選出され、今回より出席の尾形副会長より挨拶
香取市商工会の会長交代により新たに委員となった高岡委員より挨拶

(1) 香取市総合計画 後期基本計画（案）について

(各委員からの意見等)

○柏木会長

企業の誘致は、できればいいが、香取市の場合、なかなか難しい。この地域は、地所(地価)が高く、日本から海外へ流出している現状では難しい。

○石田委員

国調人口の中で香取市の住民がどこで働いているのかを、事務局で調べられたらお願いしたい。平成17年と22年の変化や旭市、匝瑳市との比較ができる基礎データがほしい。

圏央道が、あと2～3年で完成し、交流人口も増え、東北へのアクセスが非常に便利になる。農業の例では、前橋、宇都宮、いわきの卸売市場まで時間で到達し、市場が増える。企業誘致とも結びつける必要がある。製造業も業種によっては元気な業種もある。

東関東自動車道は、水戸から南へ整備が進み、銚田まで27年度までに完成する計画である。銚田から潮来は、完成年度が決まっていないが、完成すれば茨城との一体性が出てくる。道路のもたらすインパクトの記述が欲しい。

成田空港は、発着枠が22万回から30万回まで増え、成田空港が国内線を多く受け入れている。格安航空会社（LCC）が参入し、安く移動ができる。潮来や銚子などと観光の面で連携し、国内の新たな需要の掘り起こしが考えられる。

この計画には、香取市のことしか書いていない。周辺との連携、広域の社会基盤の活用、国内・海外、外部の取り込みを記述すべきである。市長の冒頭の挨拶文の中にも、記述したほうがいい。

○柏木議長

会津の喜多方市との交流都市や兵庫の川西市との姉妹都市のような交流都市を積極的に増やしてはと思う。交通網が便利になれば、交流を盛んにし、交流人口も増えてくる。

圏央道は、完成すれば便利になる。

○石田委員

企業誘致では、業種によっては地域特性を生かした企業の立地もある。圏央道の完成により、茨城工業団地に張り付いている企業との連携やそういう企業の支社の誘致などできるのではないかな。

○柏木議長

交通の利便性が増すにつれて、かつての1泊する観光地から日帰りになっている。今は会津ぐらまで日帰りコースである。日帰りの交流が非常に大事であり、観光のあり方は、今後さらに変わってくる。

佐原に宿泊施設があれば、観光客が来るという考え方はどうか。成田のホテルも大分厳しくなっている。

5カ年計画であるが、時間のスピードがすごく早いので、それに対応し、現実的に検討する必要がある。

○諏訪委員

市民意識調査で、地域医療の充実が、重要度が高く、満足度が低くなっている。小見川総合病院の常勤医師が減り、非常勤医師だと診療はできるが、手術ができなくなってしまう。計画（案）に、県立佐原病院との連携と記載があるが、小見川総合病院はカルテが手書きであり、電子カルテにすれば、情報を共有でき、時間の短縮や医療費の抑制にもなる。電子カルテを導入し、情報共有からやっていかなければいけない。

小見川総合病院は、総合病院だからといってすべての診療科を受け持つのではなく、有名な先生のいる整形外科など、専門的なものをお互いに融通し合いやっていけば、いい医療体制ができる。今後、65歳以上割合が4割になってしまうので、その辺を考えなくてはならない。

○柏木議長

小見川総合病院も診断書や薬の処方箋も、かなりスピーディになった。医師もかなり回復し眼科なども復活した。それなりに努力をしている。

○諏訪委員

今まで小見川総合病院は、薬が出るまで、かなり時間がかかったが、業者委託により、大分改善され評判がいい。肝心なところは職員が行い、委託できる部分は、外部に委託したほうがよい。赤字もなくなる。

大型店施設の誘致検討が記載されているが、景気がいい時はいいが、悪くなると、撤退されてしまい、買い物弱者、買い物難民が生まれてくるので、買い物難民を出さないような対策をしてもらいたい。

○柏木議長

大型店の作戦が変わってきており、大型店から小さな店で出店するようになっている。将来はコンビニのようにあらゆるところに出てくるのではないかと。

○諏訪委員

今、コンビニで、100円、150円の惣菜が出ているのは、地域にお店がなくなり、生活スタイルも変わっている。循環バスをうまく利用し、大型店、スーパーに停留所をつくり、買い物の不便さを解消することにより、住みよい町になる。スーパーが撤退すると、普通のお店も段々落ちてくる。

○柏木議長

農業と商業者の後継者問題が出ているが、後継者を育成するという考え方はおかしい。後継するに値しないから後継しない。採算が合わないからやらない。

○加藤委員

商業や農業の後継者問題について、自分の息子だからやらせるとかではなく、外から連れてきてはどうか。年間3万人が就職できずにニートになっているので、就職に疲れた大学生に農業や商業をやってみないかと受け入れてはどうか。インターンのような形で、お試しができるようにしてはどうか。

○柏木議長

新しい考え方で農業を見るのも大事かもしれない。

○加藤委員

これから、小さな単位の企業を、起業する人たちが増えてくると思うが、香取市では起業の支援策が見られない。千葉市にはインキュベーションという、新たに起業する人たちを助ける施設がある。これから起業する人に対し、手助けをするという視点が必要。新しくできた企業は香取市から発信していく企業になる。

起業を支援してくれるとなると、若い人が集まってくる。「Iターン」で、ほかの地域から香取市に来て、住み、仕事をする人が増える。

○諏訪委員

今後発生する廃校をうまく活用し、安い価格で提供して、若い起業家を誘致する場所として提供すればと思う。

○加藤委員

空き店舗についても、起業する人たちに安く貸し、将来的に会社が大きくなれば、賃料も取れ、税金も落ちる。

○柏木議長

松戸市で、空き店舗対策で失敗し補助金の返還というのがあったが、市が、お膳立てしても、人が集まらなければ松戸市と同じになってしまう。まず、市民が動くことが市民協働の姿だと思う。お役所が先にやっても、なかなかうまくいかないこともある。

○加藤委員

成功事例もある。島根県の沖の島の群島の中の1つに海士町では、起業の支援したところ、島の人口が2,400人ぐらいから、300人ぐらい増えた。一流企業で働き、学歴も高く、第一線でバリバリ働いていた人が集まり、起業して、仕事を作って、雇用も生まれているという例もある。

○柏木議長

勉強をする必要がある。いい意見である。

○長谷川委員

耕作放棄地を有効活用できたらと思う。市が仲介して、大学を卒業して就職できない人を農業に呼び、耕作放棄地を、農業をやりたいという人に貸せる制度をつくってはどうか。

○柏木議長

持っている農地を貸す人、借りたい人を募集し貸し借りしやすい環境をつくるべき。

○小倉委員

香取市は、遊休農地の割合は、千葉県内で一番低い水準です。山間で、水も少なく、現在の機械化の農業では、耕作に適さないような農地もある。山田地区で、企業的にも立ち上げて、地区でも耕作放棄地対策をやっていて、さらに遊休農地を有効利用しようと模索している。

○長谷川委員

農地法上難しいかもしれないが、メガソーラーとか、空いている土地にソーラーパネルを設置して発電をすることができれば、無駄がなくなる。

○柏木議長

山林や農地の空いているところでソーラー発電するのはいいと思う。

○諏訪委員

佐原消防署ができれば、消防本部を佐原消防署に移してもらいたい。消防団は、市長がトップであり、市長の号令で動く。そうすると、市役所本庁と消防本部が近くにあったほうが動きやすい。

消防団員の確保は、人口が減少するため、10年後、15年後難しくなる。人口の減少について説明し、その時点で消防団活動ができるかを示さないといけない。

○柏木議長

近未来に対して現実的に計画していかないといけない。

香取市は、4つの地域があり、その4つの地域がすべて同じようなことを要求すると混乱するので、それぞれの地域に合った計画にする必要がある。

⇒ 消防本部は、佐原消防署に持ってくるという話が進んでいます。

消防団については、今回の震災を受けて、消防団の必要性を大きく認識し、手当の関係のほか、様々な面で考えているようです。

市でも地区の消防団が確保できない地区も出てきているので、大きな問題です。

○諏訪委員

消防団は勤め人が多く、実際に動くまで、かなりの時間がかかった。地元の消防団の

OBが、安否確認や負傷者の手当等をする、自主消防組織のようなものをつくらないとやっていけない。

○小倉委員

まず企業の誘致をして、人口を増やし、そこでカップルができ子どもが生まれれば、医者も必要となる。いろいろ絡めながらやったほうがいい。

○柏木議長

少子高齢化が進んでいるが、若い人たちが子供を産めないでは困る。

里山で自然に親しむようなところをつくると何度も来るようになると思うので、そういう計画も入れてほしい。

○加藤委員

分野別計画の行財政運営の「施策の成果指標」で、経常収支比率と実質公債比率、将来負担比率が、平成29年度の目標値が悪化している状態になっている。幾つか要因は推測できるが、その説明が全くない。なぜこうなるのか。

⇒ 現在（23年度）の数字が余りにもいい数字であり、29年度にはちょっと悪化してしまいましたが、悪くなり過ぎない数字として財政のほうで目標にしています。

○加藤委員

今、財政がいいのは、どういう要因ですか。

⇒ 現在は、合併して国から様々な補助金等がきています。今後それがなくなってしまいうことです。

○石田委員

これは分母がみんな歳入で、経常収支比率は、収入に対する支出の割合です。財政当局は歳入を慎重に見る傾向にあるため、指標自体が高くなってしまふ。指標として悪くなってしまうので、この指標を出すこと自体がどうなのか。

指標の関係で、リサイクル率やごみの排出量は、香取市は非常に悪い。この指標の中に千葉県の平均値が書いてあるので、香取市は悪いということで、改善しようという努力はうかがえる。しかし、そもそも平均でいいのか。悪い指標は、平均を出すことによって、市民に協力してということであれば、意味があると思う。

平均が書いてあるものとないものと、まちまちのため、戦略を持って上手に活用すべき。

○加藤委員

行財政運営の目標設定が、説明があつてやっとわかったので、説明を入れてほしい。

⇒ わかりました。

○亀谷委員代理（菅井）

分野別計画で、3-1 地域福祉というところが、行政と社会福祉協議会が連携して、地域での福祉の仕組みづくりや展開をしていこうという構造になっていて、結構ではある。

この中の施策の成果指標で、ボランティア団体数は、23年度が89です。これを増加させるという漠然とした話だが、最近団体は減っている。ボランティアを担う人が高齢化し、消滅していくなど、危機的な状況がある。今までの減りつつある傾向の中での数字だという説明が必要。

「方針3 支え合う福祉の環境づくり」で、社協と連携し、ボランティア活動、NPO活動を含め、市民活動の拠点を設置するということであるが、具体的な施策として、香取市として総合的な福祉センター、福祉会館的な施設必要であるので、施設整備を位置づけてほしい。

○柏木議長

活動しているボランティア団体ももう高齢化が進み、自分が介護を受けるような状態で活動しているので、多少、市の補助があっても、しっかりした団体が必要だと思う。

○長谷川委員

映画やドラマやアニメの撮影場所として、誘致することに市がもっと力を入れたほうがいい。

○伊藤委員

企業誘致で、用地整備事業と企業誘致PR事業が重点になっているが、どう進んでいるのか説明してほしい。本当にやる気があり重点なのか。

⇒ 企業誘致は、市としては、雇用や税収、いろいろな面で重要です。市が持っているソニー跡地は、来る企業に無料であげるとことをしています。ただ、募集しましたがよい企業が来なかった。面積が大きすぎ、利用しきれないということで、二の足を踏んだところもあるようなので、細分化して、もう少し小さな面積で利用できるようにして企業にアプローチしています。

また、企業誘致に関しての市の支援は、かなり充実させました。固定資産税5年間の補助金や、雇用1人につき10万円などの制度がありますが、なかなか難しい。

○伊藤委員

群馬などは、近年で企業が20社ぐらい行っている。群馬の山の中で誘致できるのに、何で東京に近く、水があり、空気がよい香取市に来ないのか。用地も無料でいいと言っているのに。交通は群馬よりいいと思う。

⇒ 自分たちは群馬よりいいと思うが、企業はどう考えるかというのは難しい。いろいろな施策は、群馬に負けないようやっているが、それを相手方にどう解釈されているかが大きな問題。

○伊藤委員

PRというのはどのようにしているのか。

○石田委員

市のホームページに遊休農地なんかを紹介しているが、ソニーの跡地や西中跡地など、こういう用地があることをこの計画の中に載せてはどうか。

○伊藤委員

群馬は、ホームページとかに、出ただけであんなに集まったのだろうか。誰かのロコミがあったのか。なぜ誘致ができたのか調べてほしい。

東関道もあります。成田も近いのになぜ誘致できないのかと思うが。こんなにいい立地条件で・・・

○諏訪委員

群馬の方に行ったことがあるが、三洋食品とか、カインズの施設などがインターチェンジのすぐそばにあり、すぐ高速なので立地条件が全く違う。高速のインターを降りたらすぐそこに工場がある。

○亀谷委員代理（菅井）

群馬は、こちらから見てはるかに不便そうだが、流通業界は、日本列島を縦断するような大きなラインでみており、香取地域は、残念ながら盲腸みたいに横に出たところであるため、効率が悪い。どんな田舎でも、大動脈のところで、インターに直結のほうがはるかにいいということです。

○諏訪委員

すぐそばに大きな運送会社の配送センターもあり、そこに持って行くと、日本全国どこでも行ける。

⇒ 基本計画の中には企業誘致を盛り込んで重点でやっていくというので、内容については、個々に分析が必要です。

情報は、常に発信していかないといけません。計画には、大きく誘致をするという形で載せていますけれども、情報発信はしているし、セールスもしています。

○石田委員

ソニー跡地のパンフレットに圏央道は載っていない。認識が甘い。2年先には完成するのだから。観光においても、何において大事である。

○加藤委員

PR方法として、インターネットを使ってツイッターやフェイスブックなどを活用することにより、一気に広がり、また聞いた人たちがどんどん広めて、スピードが速く広まっ

ていく。香取市でツイッターやフェイスブックの活用を検討する必要がある。

○諏訪委員

分野別計画の行財政運営の中で、指定管理制度の導入検討事業を重点項目ということになっているが、今後、何か施設をつくる場合には、民間のノウハウを活用し、指定管理者制度を導入したほうがいい。

公共施設の整備で、PFI手法（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）ということだが、PFI手法で文化会館とかをやるのか。

⇒ PFI手法は、佐原の道の駅で採用しました。民間が出資し、民間が経営する。市はそこに建設費を15年間払っていきいます。そういう方法を取り入れられる場面で行っていきいますが、耐震工事などでは難しいです。民間も儲からないと参加しません。

○諏訪委員

以前、九州のほうで図書館をツタヤが運営するという話を聞いた

⇒ ツタヤは、指定管理者です。PFIとはまた別です。PFIはもとを建設するところから民間がやり、お金も出すというものです。